



新村の人口・世帯数	令和4年5月1日現在
令和4年世帯数	1,317 戸
男女	1,528 人
合計	1,637 人
	3,165 人

新町会連合会長 あいさつ



町会連合会長 川久保 孝正

この度、町会連合会長を務めることになりました安塚町の川久保孝正と申します。精一杯努力してまいりますので、皆さまのご協力、お力添えをお願い申し上げます。

本年度も新型コロナウイルスの猛威はオミクロン株の出現により先行き不透明で、各町会の行事等も中止を余儀なくされた状況が続いています。

このような厳しい状況ですが、町会連合会として地区の皆さまの安全と安心を最優先に考えつつ、参加人数の制限や開催時間の短縮等により実施可能と判断された事業につ

きましては、十分な感染対策をとって取り組んでまいりたいと考えております。

また、地区を取り巻く様々な課題につきましても、あたらしいの郷協議会をはじめ、新村地区で活動する多くの会や団体の皆さまと意思疎通を図りながら連携し、住みよい新村地区づくりのために取り組んでまいります。

何卒よろしくお願い申し上げます。

退任のあいさつ

前町会連合会長

岩間 瀧太郎

コロナ禍に明け暮れ、多くの事業の中止や縮小を余儀なくされた令和3年度。町会長各位や高山センター長をはじめ、地域づくりセンターの皆さまのご協力をいただき、町会連合会長を務めることが出来ました。あたらしいの郷協議会と連携して、新村地区の諸問題の協議や安全安心、特に

通学路問題で関係地権者のご理解と、関係町会長さんのご努力により、児童生徒の安全が一部図られました。

しかしながら、中部縦貫道や環状高家線、多目的研修センター、さらには空き家対策など、直近や将来に向け取り組まなければならない大きな課題もあります。この機会に事業を見直すとともに、あたらしいの郷協議会と町会連合会が組織を越えて腕を結び、隣接する和田・島立地区などとの連携が求められています。

水五訓に「清濁併せ容るるは水なり」という言葉があります。老若男女ともども「あたらしいの郷」の四季と、人々の息遣いに心寄せられんことを。大変お世話になりました。

このたび、女関ポーチの「地域づくりセンター」の看板がリニューアルされました。前回と同様に、北新東の渡辺信恵先生に筆を揮っていただきました。

地域づくりセンター 看板リニューアル

新村地区 地域づくりセンター

新村よもやま話 七岬

松本平は大昔、湖であったと伝えられている。泉小太郎の湖水伝説（蹴裂伝説）だ。諏訪大明神の化身である母犀竜の背に乗って、巨大な岩（生坂村山清路）を砕き、日本海まで水を流した。出来たのが松本盆地。湖水伝説は県内では長野、上田。県外では遠野（岩手県）、山形、甲府、奈良。外国ではカトマンズ（ネパール）、カシミール（インド北部）とパキスタン北東部の国境付近）でも伝えられている。

日本書記の神功皇后の巻では裂田の溝の開削伝説がある。福岡市の那珂川から神田に水を入れようとした時、大岩が溝を塞いでいた。皇后は武内宿禰に剣と鏡を神前にささげて祈らせた。急に雷が激しく鳴り、岩を蹴裂し、水を通すことができた。

松本平が湖水だったときの岬が七つある。横出が崎（朝日村と山形村の境）、新村の岩崎、木崎（大町）、仏崎（大町・泉小太郎の両親と小太郎が晩年こもったとされる場所）、蟻ヶ崎（松本）、押野崎（明

科)、もう一つ山辺にあったという。舟付き場であったという伝承地もある(明科の舟窪など)。標高600mまで水があったとすると、南北に約25km、東西で約8km、サロマ湖(151.59km)より大きい湖があったことになる。

母犀竜は採取・狩猟・漁労活動を生活の基本とした縄文人を暗示。安曇族(父白竜王)が松本平にやってきたころ、湖沼地帯だった。小太郎は低湿地帯を蹴裂し平地を生みだし、稲作地帯(灌溉稲作)を造り出した古墳時代人を暗示。食糧の増産により、古墳時代に日本の人口は飛躍的に伸びた。

令和4年度の町会長紹介

- 【町会長】 上新東 土屋 伯仁
- 上新西 酒井 義之
- 根石 柳澤 鉄男 (副会長)
- 安塚 川久保 孝正 (云長)
- 山王 宮崎 由雄
- 南新中 手塚 剛
- 南新東 手塚 圭一 (副会長)
- 東新 田野口 弘 (監事)
- 北新中 西原 敬二 (緑化推進)
- 北新南 伊東 徹男 (緑化推進)
- 北新西 横山 敏彦
- 北新東 三村 章博
- 下新南 白田 廣 (監事)
- 下新北 岩波 次男 (会計)

